



みんなで歌おう!

夏本番 海に 山に

輝くような青空が!



銀座での生活 Ⅲ

彼女たちがやってきたのは、次の週の金曜日でした。お店が土曜日、日曜日と休みですので金曜日がいいと私が言っていたので、それに沿ってやってきました。

一人は電話でいつも喋っている山形出身の娘で、もうひとりの友だちと言っていた人は職場の先輩で40歳ぐらいの、細身のなかなかの美人の方でした。ふたりとも緊張気味に入ってきてカウンターに座りました。まだお客さんが入っていない7時頃の事です。

私も少しぎこちなく二人に、「よくいらっしやいました」と挨拶して、それからどのように話をしようかとまごまごしていたら、チーフが「いらっしや

い、何か飲みますか? お酒のめますか?」と聞いてくれたので、私も「何か作りますよ」と勧めてみました。「お酒はあまり飲めないの」と小さな声で先輩の人が言いました。私は「では軽いカクテルを作りますよ」と生意気に一人前のバーテンダーみたいに言いましたが、実は作れるカクテルは3種類ぐらいしかありませんでした。

任せします」と彼女たちは恥ずかしそうに返事をしていました。クラブなど入ったことがない彼女たちですのでも緊張していました。カウンターに座った後ろには、海千山千のお姉さんたちがニヤニヤしながらこちらを眺めているので、私も緊張気味でした。

ピンクレディーはジンベースでグレナディンシロップとレモン、卵白を入れて作るカクテルですが、少し甘めにして作り、「どうぞ美味しいですから飲んで下さい、アルコールは弱めにしてあるので安心して」と言って彼女たちに出しました。チーフがチーフを主体にしたおつまみを出してくれましたので、私は恐縮しましたが、甘いことにしました。「このチーフも美味しいのでつまんで」と勧めましたが、彼女たちは遠慮しているのか、なかなか手をつけませんでした。カクテルを飲み始めてから少しはリラックスしたのかチーフにも手が伸びてきました。

そこで私が接客をしなければと思い、「お飲み物は如何ですか?」と他人行儀な言葉で聞いてカッコつけてしまいましたので、彼女たちも「とても美味しいです」と硬い返事が返ってきました。私はこれではいけないと思い、話題を彼女たちの仕事のことに変えて聞いてみました。「電話で注文取るので大変ですね、むつかしくないですか?」と。先輩の人が「いえ慣れれば大丈夫です」と。私が「お客の中には難しい人もいますでしょう、例えば私みたいな」と冗談を交えて聞いてみました。「そんなことはないですよ、いつも洋子さんと籠谷さんは面白くていい人みたいねと話しているの」とここで若い娘が洋子さんだとわかり、「洋子さんは勤めて何年になるの?」とありきたりな質問をしてみました。「わたしはまだ1年になりません」と恥ずかしそうに答えてくれました。

丸顔でぼちゃぼちゃした洋子さんはNHKの朝の連続ドラマの「ひよっこ」の主役で「みねこ」という子がいるのですが、その娘にそっくりで、言葉のイントネーションも同じ東北弁で可愛いのです。

私は電話ではいつも話している性格とか人間性とか想像していましたが、合ってみると想像通りで、顔を見るのは始めてですが、想像以上に可愛いので一目惚れをしてしまいました。

私は女性経験がそれまであまりありませんでしたので、女性といえばホステスのおねえ様方ですから、余計洋子さんが新鮮に見えて(ホステスさんごめんなさい)今日の日がとて

も貴重に感じ、この娘と付き合えればどんなに楽しいかと、彼女の先輩の存在を忘れて、洋子さんばかりを眺めていて、カクテルが空になっていっているのを忘れていました。チーフから「次なにか作ってあげなさい」と言われて初めてはっとして「次なにか作りましょうね」と言っている私は少ないレパートリーの中から、青い珊瑚礁を作り二人に出しました。

私の恋の始まりの日はこうして銀座から歩み始めました。・・・私の恋はどうなるのでしょうか？次回を！

籠谷弘

歌声喫茶再開の日

こんな時季に、はたしてどれだけの皆さんが参加してくださるかしら？と世話役は籠谷さんが用意してくださった消毒液で机を拭いてお待ちしていました。嬉しいことに21名もの方々が参加してくださいました。お久しぶりにお会い出

来て、元気に歌い合えて、良かったですね。籠谷さんの80才のお祝いの歌も大合唱、おめでとうございました。

願わくば、早くマスクを外して歌いたいですね。そんな普通の日々が1日も早く戻りますように、各自で、頑張りましょう。また改めて、どんなリクエストにも伴奏してください先生方に感謝ですね。有り難うございました。

菅沼清子

「楽々亭」やっと開店しました

開会する頃にはなんとかおさまったものの、京都に大雨警報が出て強風もふく中で20名が一堂に会したこと、4月発足予定が3ヶ月延びてやっとスタートできたこと、それだけで素晴らしいことだと思えました。

はじめの自己紹介で、安堂さんは「ここにおられる皆さんは自分より人生の先輩、自分が教えるもりたいし一緒に考えていきたい」と静かに自然に語り始められました。その謙虚で人間くさい語

り口が私の気持ちを落ち着かせてくれました。



安堂芳雅さん

相方を亡くされた方の想いに對して、「何がつらいのですか？姿が見えなくなったことですか？体に触れなくなったことですか？」「泣いては駄目ですか？悲しみの中で何回も出会うの問いかけは私には驚きでした。

仏教では生と死とを分けて考えない、紙の裏表だという考えなど、宗教心ゼロの私は他人事としてしか聞けないのですが、孤独という地獄、地獄は外にあるのではなくて、今、自分の中にあるという話など、大いになさきつつ学ばせていただきました。

皆さまにお会いできて、お話が聞けたこのご縁に感謝しています。

光木和子

歌声喫茶再開の感想

「この歳になって、初めて生きる喜びを感じています。」

櫻井洋三

「籠谷さんのジョークに癒やされています。」

竹田美春



歌声喫茶 9月の予定

「西院」(第2、4木曜日)

9月10日、24日

「洛西」(第1、3木曜日)

9月3日、17日

楽々亭 第2回 8月の予定

8月22日(土)

境谷会館

1時30分~3時30分

ともしび通信

発行元：NPO 法人没イチの会・京都

住所：京都市西京区大原野東境谷町一丁目1番地4-701

TEL：075-874-5320 FAX：075-874-5328

MAIL：kago@botuichi.com

●ともしび通信では、皆様の投稿を募集しております。身の回りの出来事や体験談など、何でも結構です。楽しかったこと、つらい想いをしたことなど、様々な胸の内を皆様と共有して行きたいと考えております。